

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

広島国際大学内部質保証委員会

(責任者名) 清水 壽一郎

(役職名) 学長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	<p>令和6年度より、本プログラムを開講している。プログラムを構成する科目的履修・修得状況であるが、前期には、データサイエンスⅠ、情報リテラシーを開講した。履修者および修得状況は以下のとおりである。全科目で9割を超える修得状況となっており、教授方法、難易度、学生の理解について問題はなかったと判断できる。</p> <p>(1)データサイエンスⅠ:899名履修 877名合格(97.6%) (2)情報リテラシー:899名履修 844名合格(93.9%) (3)統計学:464名履修 393名合格(84.7%) (4)データサイエンスⅡ:88名履修 55名合格(62.5%)</p>
学修成果	<p>プログラムを構成する科目的前期の授業アンケートにおいて、パフォーマンスの変化を問う設問がある。この授業を通して、新しい知識や技能、態度が身に付いたかを問う内容であるが、各科目的回答の平均は以下のとおりである。6点を満点とする設問に対して、4.80～4.90の平均点を得られており、学修成果は高いものであったと判断できる。</p> <p>(1)データサイエンスⅠ:4.86(6点中) (2)情報リテラシー:4.86(6点中) (3)統計学:4.80(6点中) (4)データサイエンスⅡ:4.90(6点中)</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>プログラムを構成する科目的前期の授業アンケート結果を確認した結果は、以下のとおりである。全項目とも平均点は、4点を超えており、学生の理解を促す取り組みが一定の成果を上げていることが判断できる。前設問での学修成果の評価により、学生のパフォーマンスも上がっていることもあり、理解度は問題ないと判断できる。</p> <p>(1)データサイエンスⅠ 【聴覚情報】4.47(6点中)、【視覚情報】4.49(6点中)、【理解度の把握】4.51(6点中)、【フィードバック】4.53(6点中) (2)情報リテラシー 【聴覚情報】4.68(6点中)、【視覚情報】4.71(6点中)、【理解度の把握】4.64(6点中)、【フィードバック】4.40(6点中) (3)統計学 【聴覚情報】4.74(6点中)、【視覚情報】4.70(6点中)、【理解度の把握】4.85(6点中)、【フィードバック】4.67(6点中) (4)データサイエンスⅡ 【聴覚情報】4.80(6点中)、【視覚情報】4.49(6点中)、【理解度の把握】4.99(6点中)、【フィードバック】4.87(6点中)</p> <p>※【聴覚情報】は教員の話し方、【視覚情報】は視覚的な資料の明瞭さ、【理解度の把握】は小テストやアンケート等での理解度の把握に努めていたか、【フィードバック】は、学修成果に対する適切な評価や指導についてアンケートを取っている。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>プログラムを構成するデータサイエンスⅠ、情報リテラシー、統計学は必修(統計学については一部の学科のみ必修)とされていることなどから、他の学生への推薦度は調査していない。しかしながら、全科目について、満足度は調査しており、結果は以下のとおりである。全科目、平均点は4.6点を超えており、非常に満足度の高い科目であり、他者にも推薦できる科目であると判断できる。</p> <p>(1)データサイエンスⅠ:4.65(6点中) (2)情報リテラシー:4.73(6点中) (3)統計学:4.83(6点中) (4)データサイエンスⅡ:4.90(6点中)</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>プログラムの履修者数を増加させるため、4月・9月に実施している履修ガイダンスにおいて、プログラムの意義、履修方法等を周知したものの、同プログラムを構成する科目は、選択科目もあることから、学科によって履修率も様々であった。2年目となる2025年度は、これらの履修者が2年生となるが、2年次に開講される科目は、全て選択科目となることから、同プログラム設置の趣旨等を鑑み、必修科目での広報(本プログラムを学ぶことの意義など)に注力し、履修率の維持・向上に努めていきたいと考えている。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	<p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p> <p>令和6年度から開講したプログラムのため、履修者が卒業した後に評価を行っていく。評価については、同プログラム修了者の進路状況の分析、企業からの評価を卒業後に実施する予定としている。評価にあたっては、就職先への修了生の活躍状況やプログラムへの要望の聞き取り調査を予定している。</p>
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<p>令和6年度から開始したプログラムのため、履修者が卒業した後に評価を行っていく。評価にあたっては、学外の外部評価委員により、プログラムの内容や手法についての評価を予定している。</p>
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	<p>データサイエンスを学ぶ意義を理解してもらうために、データ分析などの演習に使用するデータは、学生の将来に関係するような医療や健康などに関するデータを使用している。学生がこれから学ぼうとしていることに関するデータを使用することで、興味をもってもらうと共に、実際にどういった解析ができ、どういった結果を得てそれをどう活用するのかを実感してもらえるようにした。</p> <p>学ぶ楽しさを理解してもらうためには、アニメやゲームなどの学術的ではないデータを使用した分析などの演習を実施している。学生にとっては理解の難しい医療などのデータだけでなく、学術とは対極にあるものもデータであることを知ってもらい、結果が出ることを楽しんでもらえるよう工夫した。ゲームのデータを使用した演習を担当した教員からも、学生が楽しそうだったとの報告があり、一定の効果はあったと言える。</p>
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	<p>全学必修のデータサイエンス関連科目については、情報統計部会に所属する教員が授業教材を作成し、その教材を全学で利用することで、全学で統一された水準の教育を提供した。しかしながら、受講クラス(学科)により受講者の理解度が異なるため、授業担当者の裁量で課題内容を変更することを認め、受講者の理解度に適した授業内容にすることで無理なく学べるようにした。また、一部科目は動画教材によるオンデマンド方式で実施することで、個人差があつても受講者のペースで学修できるようにしている。</p>